

## 小さな親切、少しの後悔

岐阜県 藍見小学校 6年 嶋口 花乃

私が家族で旅行に行ったときだった。ある公園で、ベンチに座っていたおばあさんがつえを落としてしまい、困っているのを見た。しかし私が、まあいいかと思っていたら、お母さんが、

「拾ってきてあげなさい。困っている人がいたら助けてあげなきゃいけないでしょ。」と言った。私は、少しめんどくさいなと思いながら、つえを拾っておばあさんに渡した。おばあさんはほほえみながら、

「ありがとう。助かったわ。いい子だね。本当にありがとう。」と言った。私はハッと、後悔した。親切にしてよかったはずなのに……。すごく後悔した。なんであんなにいやいやだったのか、考えた。困っているおばあさんを見つけて、すぐに自分から動いていれば、おばあさんだけじゃなくて私も、すごくいい晴ればれとした気持ちで終わっていたことだったのに。

きっとおばあさんは、私が自分から動いてくれたと思っているのだろうなと思うと、すごく心がいたかった。だれかに言われてから行うのは、本当の親切だとむねを張って言えるのだろうか。だから、ささいなことでも自分から進んで動こう、とそのとき心に決めた。

それからしばらくたって、バスケットをするため自転車で体育館へ行く途中、女の人が女の子を連れて道ばたにいた。様子をうかがうと、女の子がけがをってしまったようだったので、けがをしたときのために持っていたばんそうこうを渡すと、女の人が、

「ありがとう。助かるわ。」と言った。女の子は、「お姉ちゃん、ありがとう。」と言って笑ってくれた。すごくうれしくて、晴ればれとした気持ちになれた。このときの女の子の笑顔と、公園で会ったおばあさんの笑顔が、今でも心に残っている。

二つの親切。一つ目は、人に言われてした親切。二つ目は、自分からした親切。同じ親切だけど、少しちがった。きっとこれからも、この二つの親切は心に残り続けるだろう。

困っている人のために誠実に、自分から助けてあげることが、本当の『親切』だと私は思う。そんな親切だからこそ、親切をした方も、してもらった方も、互いに晴ればれとしたよい気持ちになるのだと思う。

そんな『親切』を目指して、これからも、いやいやじゃなく、困っている人がいたら自分から進んで、だれにでも親切にできる人になりたい。